

## 柔道整復学科 研究発表レポート

### ■第33回 近畿ブロック学会で学生らが研究発表

9月21日(日)西山記念会館(神戸市)にて「(社)日本柔道整復師会 第33回近畿ブロック学会」が開催されました。

本校から3年生(昼間部)の穴田夏希さん、上田雅さん、梅井善史さん、原田直樹さんの4名が「運動イメージによる筋力増強」というテーマでポスタープレゼンテーションのセッションで発表しました。会場は終始盛況で、臨床経験豊富な先生方や各養成校の教員、多くの学生で埋め尽くされ、5分の発表後も活発な質疑応答が行われていました。

今回の学会のテーマである『柔道整復フロンティア』に相応しく、イメージトレーニングが長期固定による筋

萎縮や骨折の再転位を防ぐために有効であることを示唆する内容で、発表の準備段階で海外の論文や最新の情報を収集しデータの統計解析を行うなど、研究に対する意識の高さに我々教員も感心させられました。

今後も研究を通して柔道整復業界が発展するよう在校生、卒業生を含め探究心を持って研究等に取り組んでいってもらうことを願っています。

(外林大輔)



### ■第19回 日本臨床スポーツ医学会学術集会で発表

去る11月1、2日に千葉県・幕張メッセ国際会議場にて第19回日本臨床スポーツ医学会学術集会が開催されました。

本会はスポーツ医学に携わる医師や研究者が中心に集まる学会で、今回本校から初めて2年生の三瀬貴生さんと外林大輔先生の2名が発表しました。

三瀬さんは水泳競技者に腰部障害が多く発生することから、水泳中の腰部伸展角度について調査、解析し「水泳動作時の腰部伸展角度解析」と題して、水泳中は立位に比べ伸展位を取ることや、水泳上級者は初級者に比べ伸展角が少ないことを発表しました。三瀬さんの投稿論文「キック泳における腰部伸展角度解析」は『臨床スポーツ医学 Vol.25 No.1』に掲載されています。

また外林先生は、「高位中枢による予測的な制御が運動負荷開始前後の呼吸循環反応に及ぼす影響」と題して、運動を事前に予測させることが運動負荷に対する呼吸循環適応の機能向上や運動パフォーマンスの発揮に有利であることを発表しました。

こうした研究はスポーツパフォーマンスの向上に加え、スポーツ障害を未然に防ぐ上で重要であり、スポーツ障害の予防や再発の防止を常に考えなければならない柔道整復師にとっては必須の研究だと言えます。本学会における柔道整復師の発表はまだ少数であり、今後はこうした分野での研究も進めていく必要があると考えられます。三瀬さんや外林先生に続いて本校からもどんどん発表や論文投稿をしましょう！(伊黒浩二)

### ■第17回 日本柔道整復接骨医学会で卒業生が発表

去る11月23、24日に東京TKP代々木ビジネスセンターにて第17回日本柔道整復接骨医学会が開催され、本校卒業生の西川知也先生が「踵骨骨体部に特徴的なX線像を認めた踵骨骨端症」というタイトルで発表されました。本学会は柔道整復業界の中で最大規模のものであり、全国から多数の柔道整復師や医師、研究者が集まる学会です。

西川先生は柔道整復学科アドバンスコース3期卒業後、現在整形外科クリニックで勤務されています。今回の発表は、日々の臨床の中から踵骨骨端炎の症例をまとめられたもので、本校卒業生としては初めての報告です。踵骨骨端炎は柔道整復師が遭遇しやすい骨端炎の一つであるにもかかわらず、その病態については未だ明らかにされていない点もあります。とりわけ画像診断においては、骨端核の変化のみが診断の指標とされています。しかし今回、西川先生は踵骨骨体部の骨変化に注目し、疼痛の強い症例では骨体部に骨吸収像が出現することから、踵骨骨端炎の病態の本質が骨体部にあること、さら

にこの骨吸収像は疼痛と強い相関性があることから、ズデック骨萎縮(RSD,CRPS)との関連性についても言及されました。明瞭かつ適確な発表内容に参加者は熱心に聞き入り、またメモをとる姿も多数見受けられました。

2000年に本校に柔道整復学科が開設されて以来、卒業された多くの先生方が日頃の施術を通して社会に貢献しておられることと存じます。先生方の想いは、昨年5月に第1回森ノ宮柔道整復学術集会開催につながり、学術的にもより社会に貢献していかなければいけないという気運が高まってきています。西川先生の発表はそれをさらに高めることになったと思います。今後もさらに多くの卒業生の方が学会発表や論文報告などを重ねられ、柔道整復業界、医療界においてもますますご活躍されることを期待すると同時に、我々教員ならびに学校も微力ながら協力できればと考えています。(川畑浩久)

